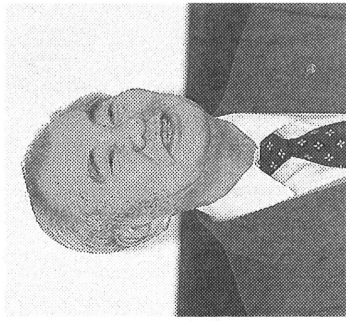


春日井の産業として定着へ



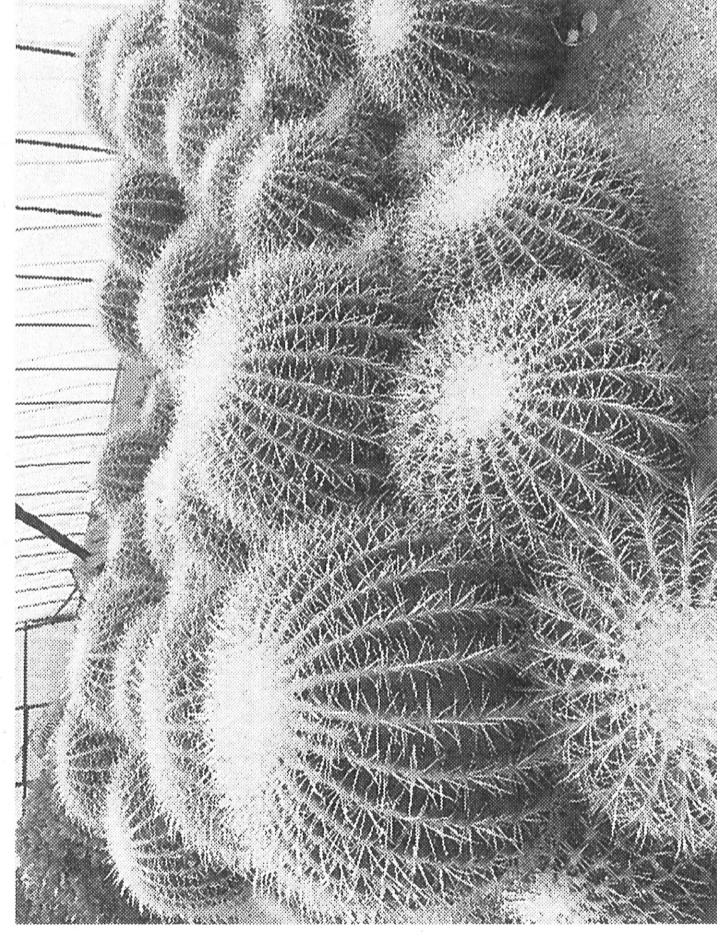
サボテンを春日井の産業として定着させること、それが雇用、観光誘致、まちおこしにつながる。こう考え、10年間、約4千万円に上る助成金を活用し、さまざまな取り組みを行うことができたことに感謝申し上げます。

春日井商工会議所会頭 松尾隆徳

しかし、認知度が向上し、商品が市場に定着しているとはまだまだ言えない状況です。この会を新しいサボテン事業をつくり上げていくキックオフの場とし、さらなる前進をしておりますので、よろしく願いたします。

産学官での取り組み広く発信

「春日井サボテンサミット」開催



春日井市の地域資源「サボテン」

春日井サボテンプロジェクトは平成18年、実生栽培日本一を誇るサボテンの地域ブランド化とまちおこしを目的に発足。以来さまざまな補助金の採択を受けながら事業を展開してきました。

食用サボテンの成分分析や商品開発に取り組み、ペースト・粉末化に成功したことで、ビール、ラーメン、焼酎、コロッケ等さまざまな商品が誕生しました。4月の

サボテンフェアでは、3年にわたって開発を進めてきた炭酸水「サボテンSUI」の販売を開始します。

昨年12月、国連食糧農業機関が、「ウチワサボテンが世界の食糧危機を救う」との真解を発表し、世界的にサボテンが注目され始めています。産学官がこれまで以上に連携し、新しい発想で事業を展開してまいります。

春日井市の地域資源である「サボテン」を活用した地域ブランド事業の将来性および事業性を模索し、産学官による取り組みを広く発信する「春日井サボテンサミット」が3月5、6の両日、春日井市豊松町の春日井商工会議所で開かれた。会場には生産・加工・販売業者のほか、大学生ら定員を上回る約130人が出席、春日井サボテン事業の現状と課題を把握するとともに、今後の方向性を探った。

サボテンのブランド定着を実感

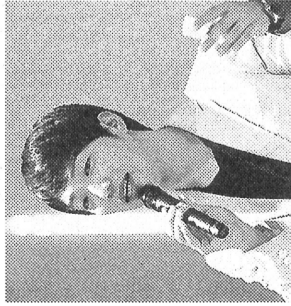


10月からスタートする図柄入りナンバープレートの「春日井ナンバー」には、温風くぐり、市の花・桜とともにサボテンのイメージキャラクターが描かれています。全国から応募のあつた作品のほとんどにサボテンキャラクターが描

かれており、サボテンがブランドとして定着してきたことを実感しました。皆様方のご尽力のたまものです。今回のサミットをきっかけに、今後の在り方について考えを深め、さらに輪が広がっていくことを期待します。

春日井市長 伊藤 大

日本のサボテン産業の最重要拠点



堀部貴紀 中部大学応用生物学部助教

春日井市は、長い歴史を持つ全国的なサボテンの産地で、さまざまな加工品が販売されています。全国的に見ても、実生栽培で200品種ものサボテンを栽培している地域はほかにありません。サボテンは、ワシントン条約による輸出規制の対象となつている植物です。春日井は日本のサボテン産業の最重要拠点であり、遺伝子資源としても非常に価値があるわけです。

サボテンプロジェクトは、多くの成果を生み出しました。第1に、サボテンという希少な地域資源を活用した商品。第2に、「サボテンのまち」という看板（ブランド）をつくりあげたこと。第3に、販売可能な商品を開発したことです。しかしながら

課題もあります。まだ多くの人や春日井市に利益を生み出す産業には至っていませんし、市民の多くはサボテンに無関係で無関心です。市民に指示されるようなブランドになっていくためには、新たな取り組みが必要でしょう。

現在、高齢化と後継者不足により実生生産農家が7軒にまで減少しています。今後、後継者の育成を強化するたためには、市農政課やJAの協力が不可欠です。実生栽培や食用サボテン生産の事業性を提示し、利益を得て、どうやって土地を確保するかについての議論を深める必要もあると思います。

サボテンの魅力やブランド事業の理念を青年部、女性会、他の業種、

サボテンに関心がある市民に伝え、賛同者を増やす取り組みを行うことで、活動の幅が広がるのではないのでしょうか。本学においてもサボテンプロジェクト活動が増えています。機能性に関する研究やレシピの開発、学生の意見を参考に商品開発をブラッシュアップすることも可能です。メキシコ大使館、植物園、多肉植物の生産者との連携にもぜひ取り組みたいところです。

「サボテンはトゲに隠された財宝である」。これはイタリアのジャーナリスト

の言葉です。サボテンの持つ大きな力と可能性が、春日井市にブラスの影響をもたらし、ものごとを確信してまいります。



サボテンプロジェクトで開発した商品「サボテン炭酸水「サボテンSUI」」

ウチワサボテンの特徴を生かしたパン開発中



小原章裕 名城大学農学部教授

6年前に「薬食同源による健康研究センター」を立ち上げて以来、名城大学薬学部と農学部が共同で「春日井産ウチワサボテン」の研究に取り組んできました。本日は、その素晴らしい生理機能について紹介したいと思います。

生物にとつて不可欠な酸素です。酸素がエネルギーをつくる過程で、反応性の高い酸素（活性酸素）が体内に発生し、それが動脈硬化や糖尿病などの生活習慣病の原因になるといわれています。研究の結果、春日井産ウチワサボテンには活性酸素を消去する物質が含まれていることが分かりました。生活習慣病の予防や改善が期待できそうです。日本人の死亡原因の第1位であるメラニンを大量に生成する細胞

ノーマはマウス皮膚がんの細胞ですが、ウチワサボテンの抽出物は、メラノーマ細胞によるメラニンの生成を阻害することが分かりました。美白効果もありそうです。子宮頸がん細胞の増殖に対する効果の検討では、正常細胞にダメージを与えない抗がん剤の開発に活用できそうな結果が得られました。また、ネズミを使った実験では、生の抽出物にアレルギー症状を抑える効果があることが分かりました。

現在、サボテン入りのパンを開発中です。サボテンの食物繊維が、活性酸素を消去する物質を保護する役割を果たすのです。整腸作用があり、活性酸素を消去するパンを近いうちにご紹介できればと考えています。ウチワサボテンの生産量の確保が今後の課題になるでしょう。

「春日サボテン産業のこれから」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

水野 ます、生産者、事業者から見た春日サボテン産業の課題を後藤さん、出口さんからお願いします。



水野 隆氏 (会議所副会頭)

後藤 私ともは祖父の代からサボテンを栽培し、小学校の社会学習の受け入れも約20年続いています。「サボテンのまち」



後藤 登吾氏 (後藤サボテン)

のPRに努めています。なかなか認知度を上げることは簡単ではありません。高齢化で全盛期に50軒近くあった栽培農家が激減し、後継者の育成が大きな課題となっています。食用サボテンを使った商品の価格を抑えるには量の確保が必要ですが、マニュアルがないため、苦労しながら工夫を重ねているところです。

出口 勝川駅前の大弘通りの商店街でサボテン商品と地域特産品を扱うアンテナショップを運営しています。いろいろなサボテン商品を作って店頭で販売



出口 美紀氏 (ごだわり商店)

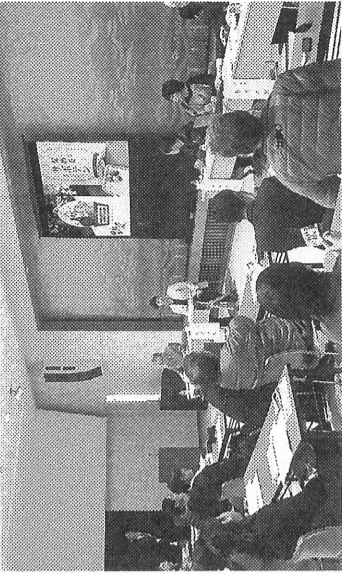
してきましたが、オリジナル商品のところも「なるサボテン」の開発・販売を通してマーケティングの大切さを実感しました。植物好きが集まる場所でサボテンの機能性を十分感じていただける付加価値をつけた商品は販売していく必要があると思います。

水野 堀部さんから何かアドバイスはありますか。

堀部 海外の利用例の紹介や



堀部 貴紀氏 (中部大学)



栽培農家の後継者育成が課題 ブランド価値の共通認識を 存在が分かりやすい商品開発

後藤氏

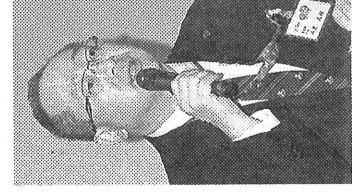
石黒氏

出口氏

機能性による裏付けを行うことで、リピーターになってもらうことが重要です。認知度を高めるために、東山動物園等近郊で開催される催しやメキシコ大使館で開催される企画に参加してはどうでしょうか。価格については、一部を市外から仕入れるのも一つの手段です。

後継者の育成は非常に難しい問題です。市産業部農政課では就農支援を担当されているとのこと。

石黒 農業の担い手や農業を支援する人を養成する「かすがい農業塾」や親子で農業に親しむ「親子で農業体験」といったプログラムにサボテンを取り入



石黒 昌樹氏 (市産業部長)

れるのもよいかもれません。当市では、平成19年からサボテンを使ったメニューを学校給食に取り入れています。また、社会の授業で春日井について学ぶ小学3年生が、社会見学でサボテン園を訪れています。平成29年度は約2千人の小学生が後藤サボテンを訪問しました。

水野 生産加工、販売のトライアングルをつくるのが産業化の第一歩です。ステップアップを図るための今後の取り組みは。

後藤 サボテンフェアで、来場者に種まき体験をしていただくことを考えています。2〜3年で小さなサボテンに育つのですが、手をかけて育てることでサボテンに愛着が湧き、より身近で魅力を感じていただけるのではないのでしょうか。行く行くは、小学1年生で種まきしたものを2年ぐらいたった農家が管理し、3年生のときにそのサボテンで寄せ植え体験してもらえたらと考えているところです。

出口 サボテンの存在が分かりやすい商品として開発した「サボテンいなり寿司」、インスタ映えを狙ってキャラクターをモデルに開発した和菓子「春代ちゃん練り切り」。このような一つの特徴に特化した商品が、ほかの商品を牽引し、認知度を高めていけるようにしていきたいと考えています。「サボテン」という言葉をキーワードに農業者の事業者同士が協力し合い、みんなが県外にも出掛けていける強みを、今後も生かして取り組んでいきたいと感じます。

石黒 産産を語る前に、なぜ春日サボテンを発信するのか、ブランド価値はどこにあるのかという共通認識を持つ必要があるのではないのでしょうか。今までのようにあれもこれもというのではなく、果実でいくのか、食用でいくのか。供給量は市内だけで賄えるのか、市外に頼る場合は春日サボテンと名乗れるのかといったことを突き詰めていく必要があります。

春日井市は6月1日に市制50周年を迎えます。このサボテンサミットが未来につながるきっかけになることを期待しています。

堀部 これまでの成果や課題を共有できたことが、本日の一番の成果です。今後活動を発展させていくためにはさらに議論を深めていく必要があります。今後の方向性を立案し、皆様に報告する場を設けることを約束いたします。

純系名古屋コーチン料理 四季の会席
 水徳 株式会社
 水徳 株式会社
 水徳 株式会社
 水徳 株式会社

わたしのまちのパン屋さん
 モンシェール
 MONCHER BAKERY & CAFE
 株式会社

7学部がワンキャンパスに
 集結する総合大学
 工学部
 経営情報学部
 国際関係学部
 人文学部
 応用生物学部
 生命健康科学部
 現代教育学部
 中部大学
 平487-8501 愛知県春日井市松本町1200

4月7日(土)・8日(日) 10時~16時
 「サボテンフェア」春日井名物グルメ王座決定戦開催!
 落合公園にて(春日井市東野町)

入場無料

生まれは春日井

左から春代(はるよ)、日丸(にちまる)、井之助(いのすけ)

グルメ王座決定戦

☆春日井市の名店が42店舗出店
 ☆あなたの一票が名物グルメを創ります!
 ☆スティージーイベントも開催します

サボテンフェア

☆たくさんサボテンの即売会
 ☆サボテン寄せ植え体験
 ☆サボテングルメや関連商品の販売
 ☆お楽しみ抽選会 など